（1）　平成16年6月20日　（昭和26年4月18日第三種郵便物認可）　慶應義塾医学部新聞　毎月20日発行　定価1部20円　第632号

慶應義塾医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211　内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　末舛　惠一
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間（午前9時～午前11時）
●電話（3353）1211（大代表）

第73回北里記念式典開催される

恒例の三四会賞授与実施

受賞者

北里賞　浜松医科大学　蓑島　伸生

北島賞　外科学教室　戸田　正博

六月十二日(土)午後一時から第73回北里記念式典および恒例の三四会賞授賞式典が行われた。この日式場には安西塾長はじめ北島医学部長、末舛三四会長などの他北里家から北里一郎氏が出席していた

三四会賞受賞者講演会の会場と㊨は挨拶する安西塾長

式典は最初に全員起立して黙祷を捧げた後安西塾長の挨拶により開始された。塾長は生前の北里先生が工学部を訪れた際に〝ここは破傷風菌が一杯いる〟といわれたなどのエピソードを語った後医学部創始者である北里先生の意志を継承し今日の慶應の看板としての医学部を維持発展に導いた卒業生達や困難な世情の中を運営に努力している北島医学部長、協力者としての末舛会長に感謝する旨述べ今後とも北里先生が描いた将来像に思いを馳せ、北里先生の精神と業績を継承してもらいたいと述べていた。次いで北島医学部長は本日の式典に臨んでの言葉として「昨年数件の北里先生の記念行事があったが何れも盛況のうちに開催されており北里先生の偉大さを示していた。その後を継ぐ私達としては先生の建学の記念を意識して医学の先導者として学問研究・教育につくすべきである。特に先生の教えである基礎・臨床医学の密接な関連を重視すべく、今日の三四会受賞の業績は何れもその精神を重視したものといえる。今後とも北里先生の精神をもとに慶應医学を発展させて行きたい」と語っていた。

最後に立った末舛三四会長はその挨拶のことばとして次の様な視点での北里先生の精神を強調していた。即ち慶應医学を創始された北里先生が示されている基礎医学を臨床領域へ応用することを実現すべきとのお考えは更に社会へ及ぼす所迄考慮すべきものと考えられる。三四会としてはこの方向での運営に努力したいと結んでいた。

これら挨拶に次いで北里家代表北里一郎氏は、北里先生がドイツから帰国し慶應義塾大学医学部創立に至った経緯を語り、その後今日に至る迄の間、医学部・病院の維持発展に努力された方々に対する感謝の言葉を述べていた。

（関連記事二面）

三四会定例理事会

―16・5・28―

報告事項

一、三四会十五年度決算報告

二、赤倉山荘十五年度決算報告

協議事項

一、三四会十六年度予算案

二、将来計画委員会（五月二十八日実施）について

(一)全国支部長会開催

(二)勤務医の定年後の対策

(三)法律関係相談への対応策

(四)女医への対策

三、三四会奨学金の件

学部長より依頼のあった大学院生への援助目的で準備した一千万円は状況が変化しその使用目的を修士過程、女医対策等に変更する方向で検討

四、六月十二日開催の評議員会の役割分担について

五、同じく当日配布の資料の選別

六、赤倉山荘について

理事会員にアンケート型式でその存続に対する意見を求めた所次の様な成績

存在・　2

条件つき存続　10

廃止の方向　12

よって評議員会に提案して意見を聞く。

七、三四会奨励賞は昨年同様の形で候補を求める

八、会則改訂の件、今迄の検討結果を理事会へ提案

九、大会希望者　三名あり

院長交替

東京歯科大学市川総合病院

(新)品　亮（泌　43回）

(前)高橋正憲（外　48回）

富士重工業健康保険組合総合太田病院

(新)難波貞夫（外　46回）

(前)新原博之（外　38回）

教室主催の行事

―16・6・1―

【産婦人科学教室】

第5回日本産婦人科乳癌研究会

一、当番世話人　野澤志朗（教授　44回）

二、会期　九月十九日

三、会場　（東京都）大手町サンケイプラザ

平成十六年度

三四会定例評議員会

六月十二日(土)北里記念式典終了後、平成十五年度三四会定例評議員会が開催された。この日全国各地より参集した評議員は例年より多数であった。

今年度の予定された平成十六年度の議案は次の様であった。

一、事業計画

(一)三四会賞選考及び表彰

(二)三四会と関連病院との連携交流計画

(三)医学部新聞発行

(四)ホームページ運営

(五)赤倉山荘運営

(六)将来計画検討委員会

(七)全国三四会支部総会

二、平成十五年度三四会予算案

三、平成十五年度赤倉山荘予算案

四、会則変更

開会にあたり渡辺議長が指名され議長席につき最初に挨拶に立った末舛会長は要旨次の様に述べた。

研修医制度発足に伴い三四会員への加入の変化に応じた対策をとりたい。

将来計画検討委員会を設けて会員への対応や支部のあり方を再検討すべく全国支部長会議を十月二日に開催予定でこの会議には安西塾長も参加予定である。

大学院生支援のため医学部長より依頼をうけ一千万円を準備したがCOEプログラム二件が通り研究助成金を確保出来たため、この資金は医学生と修士課程から博士課程に進む大学院生のうち困窮者に提供されたいとの医学部よりの要請があり、又女医への支援資金との案もあるため検討中。赤倉山荘の現状および理事の七十五歳定年制を含む会則の改訂につき提案を行う。

大学病院決算

七年ぶり黒字に

平成十五年度の大学病院の決算が確定した。収入は四〇八億九七一四万円（うち、入院収入二三九億一九六〇万円、外来収入一五一億五三〇七万円）、支出は四〇六億七二一七万円（うち、病院経費二〇七億七九四七万円、人件費一九七億五七二五万円）で、差引き二億二四九七万円の黒字となった。平成八年度に黒字を出して以来、赤字続きであった病院経営に明るい兆しがみえてきた。

相川病院長の話　病院の全教職員が一致した不断の努力のおかげで、何とか黒字決算となりました。平成十六年度は、研修医の処遇改善や病院環境整備、PETセンター構想など支出要因もありますが、さらなる経営改善と構造改革に努め、安全で質の高い医療を目指していきます。

慶應義塾大学病院の年次消費収支差額の推移

（単位:千円）

年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
収支差額	120,483	▲ 583,358	▲ 1,020,296	▲ 360,981
年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
収支差額	▲ 1,517,921	▲ 1,025,157	▲ 1,030,748	224,975

論壇

外来診療研修の重要性

中村　治雄

本年から新しい研修システムが開始され、その成果が期待されているところである。勿論、研修医の意欲と指導医による適切な指導が大きく関与することには言うまでもない。しかし、何処で指導を受けるのか、その場所によっても影響を受けることになる。

今回の研修システムの場は主として病棟で、系統的に診察、治療を行うことであろうが、私自身の経験から、ある時期は外来診療に従事し研修することも大きく役立つものと考える。以下、メリット、デメリットなどについて私見をまとめてみたい。

外来診療研修のメリット

一般に患者数が多いので、多様な疾患をみることができる。しかも外来から入院へ、入院から外来にてのフォローと、一貫性を持って診療することも出来よう。しかし短時間で的確な判定を必要とすることはいうまでもない。指導医が適当な症例を選び、多少診察に時間がかかるが、視・触診、打・聴診、その他について同意の得られた外来患者については、実際的に診せて貰えること、直接指導することなども可能であろう。しかも訴えや所見を総合して考え、裏づけとしてどの様な検査を進めればよいのかなども一緒になって考えることが出来る。

私がアメリカへ留学した時に、救急を含め各種の外来に出たが、特に糖尿病外来では、眼科専門医に行って貰う前に自分達で眼球の動き、眼底の所見などを診ておき、後で眼科医からの最終判定を照らし合わせたりしたことを憶い出す。

その際、頸動脈と腹部大動脈における血管雑音の有無は、どの患者についても検査され、動脈硬化の多いことに驚いたことを今でもはっきり記憶している。

更に、診察室の扉に薬事人の印刷物がピンで止めてあり、本日は attending physician として日本人医師が同席していることが明記されており、専門医のみに診て貰いたい場合には予めナースに伝えるようにとも記されていた。しかし殆ど拒否される例もなく、全員を診ることが出来たことも憶えている。それには大学病院では、若い医師の教育、指導が行われることが患者自身にも理解されていたことにもよると思われる。このような雰囲気を一般的に作り出すことは将来の日本における医学教育のためには必要なことである。

しかし、このような診療システムは日本では現実の問題として難しい。

外来診療での研修デメリット

現実の問題として、患者数の多い外来において、ゆっくりと患者を診る時間がなければ教育に時間を割くことはきわめて難しい。従って触診、聴診などに研修医が直接タッチできる時間がないのではないか、更に、指導医の確保、特に専門医の認定をうけた指導医を十分確保できるかどうか、また入院のように invasive な検査を行うことは、比較的少なく、検査にも或る程度限界があろう。

検査の問題は、或る程度やむを得ないが、如何に教育に貢献してくれる患者を選ぶか、専門医の確保、外来診療にあまり迷惑をかけなくて、或る程度の時間をとりつつ教育、指導が出来るかどうかであろう。

デメリットの改善へ向かって

慶應の関連診療所の中からレベルの高い施設、特にある領域の専門医がおり、大学に劣らぬ診療を行っているところを抽出し、協力を得るようにしてはどうか。しかし、最も重要なコンセンサスは、外来診療での研修を、ある基準の基に行うことのメリットを考え結論を出すことであろう。

最も基本的な点は、患者の教育参加への協力を得ることであり、一般への啓蒙の他に、大学から要請を受けた教育指導の診療所であることを明らかにすることであろう。次に教育し得る能力のある指導医を選び、確保することであり、関連施設にどの領域が専門で、どこにあるのかを明らかにすべきである。勿論、それには設備を含め資格の審査が重要となろう。

大学での外来も、それに伴って教育に指向した診療ブースを作り、指導医を置くように改善しなければならない。

以上、能力・知識・態度など立派な医師を養成するためには、病棟における研修が重要であることはいうまでもない。しかしその実践として有効な外来診療での研修を加えることを是非提案したい。

（三越厚生事業団　内　38回）

落穂

三四会運営の基本

今年の三四会評議員会は例年になく賑やかであった。提案の議題は例年とほぼ同様のものであったがそのうち二件程は注目すべき案件であったといえる。

その一件は赤倉山荘運営に関するもので他は会則改訂関連の議案である。

赤倉山荘についてはここ数年来利用者の伸びが乏しく特に三四会員の利用者は減少し、昨年には遂に「ゼロ」になったとの報告である。にも拘わらず本年度は利用者増を目指しての予算を昨年以上に計上している。その理由としては三田キャンパス関係学部に働きかけて利用者獲得をはかるとのことであった。これに対し質議が提出されたが、その答弁として「山荘は慶應義塾の所有で設立の時点ですべての塾員が利用し、その運営は三四会が担当するとりきめになっている。従って赤字補填もあり得るし三田に働きかけ利用者増をはかっても問題はない」との説明であった。しかし三四会員の利用減に至った理由とその対策について何等説明はなく、計上赤字の予算に占める率も僅少であるかの如き言及迄あった。この答弁を聞いて山荘設立が立案され三四会員に寄付を求められた頃のことを思い出した。若い学生達に憩いの場を提供する目的が強調され多くの会員は募金に応じたが一部の会員は山荘の将来性に危惧をとなえ設立への配慮と慎重な企画を強調していた。結局は充分な議論なきまま設立され今日に至っているが当時の検討の不充分さが悔まれてならない。

今一つの注目した案件の会則改訂に関してであるが、会場の評議員がその趣旨を充分理解して審議に応じているとは思えぬ雰囲気も少なくなかった。この様な重要な案件は充分時間をかけて各地三四会員に説明して最大公約数的な納得を得て結論を出すべきものと思われる。

要は三四会の運営は執行部と会員の間に充分な意志疎通と理解ある共通認識の下になされるべきものであって執行部との間に了解不良の部分があってはならない。会長が今回の会議のはじめに述べていた将来計画の中に全国支部長との会議を持って意見交換をはかるとの企画は相互理解を充す点で結構な話ではある。三四会は会員の理解・納得が乏しい状態で方針が立てられ、運営が決り、会費のみは確実に徴収される組織ではない筈である。会員相互の信頼と良識ある執行がなされる所に本来の姿があるのではあるまいか。（F）

平成十六年度

慶應医師会理事会・総会（第一回）

平成十六年六月七日(月)、平成十六年度（第一回）慶應医師会理事会・総会が三四会館会議室で開催された。当日は委任状を含め、四〇三名の出席のもと、平成十五年度庶務報告、同事業報告、会計報告がされた。審議事項としては、平成十六年度事業計画案として第三回慶應医師会・市民公開講座の開催（テーマは頭痛）、慶應医師会医学研究助成金交付、医学部国際交流委員会活動援助、慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー1および慶應医学会例会共催、東京SSI（手術部位感染）防止フォーラムと共催、慶應産業保健研究会に参加協力などが審議され、それに伴う平成十六年度の収支予算について審議が行われた。当医師会の平成十五年度の入会者は八七名、退会者は七八名であった。現在、会員数はA2会員（医師賠償保険加入会員）七四名、B会員（一般会員）六〇二名、C会員（研修医）二一名の合計六九七名である。

平成十六年度

慶歯会総会・学術講演会

平成十六年度歯科口腔外科学教室同窓会（慶歯会）総会および学術講演会が、平成十六年五月二十九日(土)に開催された。本会は年に一度、全国から同窓が集まり開催されている。教室同窓は全国に二百五十名いるが今年は同窓会員三十一名、現教室員四十五名が参加した。平成十五年度庶務報告、決算報告、新役員人事などの議事に引き続き新会員紹介、物故会員報告がなされた。総会終了後、学術講演会が開催された。本年は、教室から渡邊武之先生が「使用中の総義歯から学ぼう～旧義歯から、新義歯の経過からの情報～」と題して歯科補綴学の立場から臨床で遭遇する患者の使えない義歯に対する不満の原因を明瞭に講演。同窓からは菅野文雄先生が「米国大学院の紹介とその症例から」と題して創立二二五周年を迎えた米国ペンシルバニア大学歯周補綴科での研究生活を紹介、活発に議論された。総会・学術講演会に続いて「オアシス」に場所を移し懇親会と新人歓迎会が開催された。フレッシュマンの余興で一気に盛り上がり、一年後の再会を誓って解散となった。

新棟中会議室で開催された慶歯会学術講演会

お願い

教室の人事消息、主催する行事など、三四会員への弘報として適当な事項をお知らせ頂く目的で毎月「連絡表」をお回し致しておりますのでご記入の上ご連絡下さる様お願い申し上げます。

編集室

平成十六年度

三四会員が会長担当の定例学術集会

―七月～九月開催の集会―

（担当者又は所属よりの連絡による）

学会名
一、会長名
　所属
二、会期
三、（開催地）会場

第10回日本ヘリコバクター学会
一、北島政樹（外　45回）
学部長
二、七月一～二日
三、（東京）京王プラザホテル

第7回日本組織工学会
一、中島龍夫（形　49回）
形成外科教授
二、七月一～二日
三、（東京）砂防会館

第13回日本定位放射線治療学会
一、久保敦司（放　47回）
放射線科教授
二、七月十日
三、東京（都市センターホテル）

第19回日本歯科心身医学会総会
一、永井哲夫（歯　特49回）
歯科口腔外科講師
二、七月十七～十八日
三、（東京）北里講堂

第12回日本がん検診・診断学会総会
一、金子昌弘（49回）
国立がんセンター中央病院内視鏡部医長
二、七月二十二～二十三日
三、（東京）国立がんセンター国際研究交流会館

第27回日本生殖外科学会
一、井上正人（産婦　44回）
山王病院院長
二、八月四日
三、（東京）品川区立総合区民会館（きゅりあん）

第44回日本産科婦人科内視鏡学会
一、野澤志朗（産婦　44回）
産婦人科教授
二、八月五～六日
三、（東京）品川区立総合区民会館（きゅりあん）

第12回国際熱傷学会
一、相川直樹（救　47回）
病院長
二、八月二十二～二十六日
三、（横浜）パシフィコ横浜

第11回日本遺伝子診療学会
一、清水信義（分子　特49回）
分子生物学教授
二、九月十七～十八日
三、（東京）東京国際交流館

最優秀講演賞受賞

斉藤　京助手

（皮　73回）

第三十一回皮膚微細構造研究会（SCUR）は欧州皮膚病理学会と合同で五月六日から八日までローマにて開催された。斎藤京助手は「デスモグレイン3ノックアウトマウスにおけるデスモソーム構成分子の微細局在」というタイトルで、デスモソーム内の特定の分子が欠損した際、他の分子の局在に与える影響につき金コロイド包埋後免疫電顕法を用いて定量的に解析した結果を発表した。分子間相互作用に新たな切り口から知見を加えたことが評価され、閉会式に於いて最優秀講演賞を受賞した。

（提供　石河　晃　65回）

三四会奨励賞の推薦について

推薦要領

目的

若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図ります。

対象

一、次の各分野ですぐれた実績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみでなく、研究施設他大学、地域等で業績をあげている三四会員も含む）です。

二、対象となる分野

イ、臨床医学

ロ、基礎医学

ハ、地域医療、社会貢献または三四会活動等

三、臨床医学、基礎医学分野においては満四十歳以下、地域医療、社会貢献または三四会活動等の分野においては、原則として満四十五歳以下となります。

推薦方法

一、推薦者は、三四会役員、三四会支部長、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授および慶應義塾大学関連病院長会員とします。

二、推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。

三、推薦締切りは平成十六年八月二十五日(水)必着、三四会事務局宛とします。

四、提出部数は、推薦状、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと八〇〇字程度の抄録）、地域医療・社会貢献・三四会活動等においては、それを証明する資料、ともにコピー十部が必要です。

五、対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書が必要となります。

選考ならびに受賞

三四会奨励賞選考委員会による厳正な選考の結果、約十名程度の受賞者を決定します。受賞者は平成十六年十一月十二日に予定されている慶應医学会総会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。

事務局

〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部三四会事務局
TEL　03―5363―3735（ダイヤルイン）
FAX　03―3358―0664

平成16年度予算(案)

三四会

収入の部	（単位:円）	支出の部	（単位:円）
1. 会費収入	54,084,000	1. 事業費	28,800,000
郵便振込分　5,937名	47,500,000	三四会賞表彰関係費（春・秋）	4,000,000
信濃町勤務分　700名7.8％	5,600,000	名簿送料	500,000
新入会員分　123名1.4％	984,000	会報発行費（新聞人件費含む）	9,500,000
2. 入会金（83回生・特）123名	984,000	会報送料費	5,800,000
3. 新聞購読費	300,000	広報費（ホームページ）	3,500,000
4. 刊行物収入	2,500,000	広報費（ホームページ）新整備費	1,500,000
名簿代	300,000	生涯教育研修セミナー	500,000
広告代	2,200,000	海外研究者との交流費	500,000
5.その他収入	3,000	学生援護費	1,000,000
受取利息	3,000	その他の事業関係費	2,000,000
雑収入	0	2. 会議費	2,600,000
		役員会費	600,000
		支部会議費	2,000,000
		3. 事務費	12,850,000
		給料手当	4,000,000
		福利費	500,000
		交通費	200,000
		支払手数料	450,000
		備品費	800,000
		事務機器リース料	150,000
		消耗品費	500,000
		印刷費	500,000
		通信費	1,400,000
		図書費	0
		業務委託費（大日本印刷組版費用含む）	2,500,000
		支払報酬	850,000
		雑費	1,000,000
		4. 退職積立金	100,000
		5. 赤倉山荘特別会計繰入金	2,700,000
		6. 医学部援助金特別会計繰入金	10,000,000
		7. 予備費	1,000,000
収入予算小計	57,871,000	支出予算小計	58,050,000
前年度繰越資金	82,237,088	翌年度繰越資金	82,058,088
合計	¥140,108,088	合計	¥140,108,088

平成15年 収支決算内訳

平成16年3月31日現在

収入の部	（単位:円）		支出の部	（単位:円）
1. 会費収入	57,666,000		1. 事業費	27,819,091
郵便振込分　6,379名	51,034,000		三四会賞北里関係費	3,596,495
信濃町勤務分　696名	5,568,000		名簿送料費	1,056,369
新入会員分　133名	1,064,000		会報発行費	9,056,497
2. 入会金（82回生・特）	1,064,000		会報送料費	6,167,505
3. 新聞購読費	300,000		広報費（ホームページ）	3,545,220
4. 刊行物収入	2,660,000		卒後臨床セミナー	500,000
名簿代	255,000		学生援護費	1,700,000
広告代	2,405,000		留学生を励ます会	230,685
5. その他の収入	230,173		その他の事業関係費	966,320
銀行利子	15,173		北里柴三郎先生生誕150年記念式典	1,000,000
雑収入	0		2. 会議費	733,185
寄付金	215,000		役員会費	573,185
			支部会議費	160,000
			3. 事務費	11,656,315
			給料手当	4,749,145
			福利費	340,584
			交通費	225,870
			支払手数料	446,305
			備品費	246,540
			事務委託費	155,610
			消耗品費	320,862
			印刷費	300,615
			通信費	1,313,504
			図書費	0
			業務委託費	1,901,554
			支払報酬	731,660
			雑費	924,066
			4. 退職積立	100,000
			5. 赤倉山荘特別会計繰入金支出	2,700,000
			6. 医学部援助金特別会計15年度分繰入金支出	10,000,000
			7. 予備費	589,251
収入合計	61,920,173		支出合計	53,597,842
前年度繰越金	73,914,757		翌年度繰越金	82,237,088
総合計	¥135,834,930		総合計	¥135,834,930

以上の通り決算報告致します。

平成16年5月12日

経理　山本　修三　印

経理　末岡　浩　印

経理　渡辺　真純　印

以上の決算報告を監査の結果承認致します。

平成16年5月12日

監事　高田　晶　印

監事　小佐野　満　印

監事　比企　能樹　印